育てよう国民演劇

新劇は何故嫌われる!!

「新劇」というものは、何かわれわれの生活とあまり関係が無く、面白くないものだという先入感が強いことは否定出来ない。しかし「新制作座」の「馬五郎一座てんまつ記」「あさばらの花は何処に咲く」を誰が見てもよくわかつて、われ等庶民の生活をよく表現していて呉れているということを知つた。

だがその劇に七月一日の市民会館での公演は動員が足らなくて、見事期待を裏切つた。何故失敗したかどうしたらわれわれの劇団として大衆に知つて貰うか、ということが主たるテーマーで、七月二日午後五時より、製作支部談話部の主催で合唱団、演劇部の方々に集つて頂き劇団側(槇村浩吉、華村公寛氏外六名)と懇談会をひらき新制作座及新劇への理解を深めた。

よかつた新制作座

懇談会は劇団側の自己紹介の後、早速はじめられた。

×サーグル及編集部

○劇団側

× 昨日演劇にも大変感激しましたが何よりも印象に残つていることは、最後に劇団側から訴えられた「何故見に来て呉れない」ということが印象に残つている。

○ 普通の場合あゝいうことを舞台から申し上げるべきことでないが、皆さんと私達は同志だという気持で申し上げましたのでその点は御諒解下さい。

× 観客が少なかつたということで私は、新劇というものが、何かインテリーの見るもので、労働者のものでないという考えがあつて動員の成績が悪かつたと思つています。

私自身も新制作座の芝居を見て全く喰わず嫌であつたと思つた。

○ 「馬五郎」と今度の芝居を見れば、私達の劇団がどういうものかゞ判つて貰つたと思います。

油臭い體臭を感ず

大牟田にわれわれの新劇を、ということは参加者全員が感じ、今後はお互に努力して多くの同志をつくろうということになり、専門的な演劇の批判、検討に入つた。

× 脚本の構成ですが本当に強調すべきところが弱く、群衆劇としても物足らなかつた。

× 幕の開る際、時間的に呼吸が合わなかつた点が二、三回あつたようだ。

× 幕合いの音楽は大変よかつた。

今後も皆さんとゝもに研究してよい劇を作つて行きたい。

それに現在私達のいう国民演劇というのは少く、こん度の芝居で私達の主張を知つて頂きたい私達が何処でも嬉しかつたことは、新劇は面白くないと思つていたが、新制作座を見てこれは俺達の芝居だ、面白いといわれたことです。

しかし私達の期待した、大牟田では全く失敗で、よそでの失敗であつたらあきらめもつくが、大牟田や八幡にむけて書いた芝居だけに残念で仕方がない。

× うた声と同じく、演劇というものも大きな力をもつていると思う。今後は新制作座は素晴しいということを一人一人認識させることが必要だと思う。そういう意味では中央合唱団は職場や地域のサークルと日常つながつている。

新制作座も公演以前から早くオルグを出し、宣伝を大いにやつて貰いたい。

○ オルグも居るが人数が少いので期待に添いかねるかも知れないが、大いに必要と思うので考えてみたい。

× 私は「あゝばらの花」を見ていて、心の中にグングンとヒューマニズムというか、人間性をみつけて新劇を理解することができた。

庶民の行う新劇

○ 劇団としては、庶民に見せる新劇でなく、庶民が行う新劇をやつている。

私達は一年の大半を工場労働者と一緒に暮づいています。私達自身が庶民です。私達の生活が集約されたのが大牟田や八幡です。それで東京や名古屋で成功するよりも大牟田で成功することがうれしい。

× 問題は新劇への理解がどうあるかということ、労働者の感情をつかむことだ。

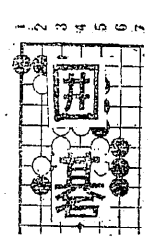
○ 組合の闘争目標の中にもつと大きな文化闘争を入れて欲しいこれは確かに負けている。この目標をはつきりしてもらうことが大牟田ではできると思う。

× 本日集つた者や演劇を愛好する者が一人一人のファンを獲得することがよい演劇をつくる要素だと思う。中央合唱団の成功はそこにあるようだ。

○ 現在では都会の知識階級が新劇を支えているので、新劇はその人達のための演劇をつくつているので大衆は演劇をもたず、魅力も失つている。釈物なんかは読めばわかる。演劇は言葉ではない息使いです。これは釈物ではわからない現在のゴーリキチエホフをつくらなければならない。結局演劇の魅力は大衆とともに今日を生きるということで、これから演劇が生れて来る

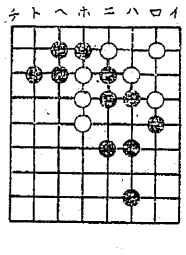
○次回は真山美保作の「前進座さんがピリになつた話」でお目見得する。

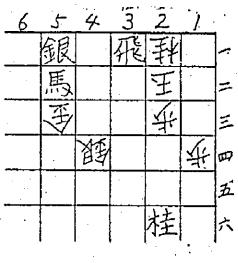
四十年間つれそつた亭主が死ぬとき「お前はもつと新しくなれ」といつたゝに発奮して奇想天外の面白さと時代の風刺が利いたもので、自信を以て公演出来るもので期待下さい。



黒先　白死(初級)

▽ヒント 黒両側からハネて両刃の形となり白死ぬことになる。





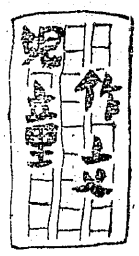
持駒　角銀歩

▲ヒント 馬が主眼、はじめに逃げ道封鎖による捨駒からはじめる。(初級向)

円虹俳句会

(於四山支部＝六月三日)

雨はれの雫子鮮らし虹の前　津根を
紫陽花に不貞の髪をすきこぼつ　鼎衣
妻とバラ嗅ぎ合い貧をあざ笑ふ　康子
何はゞかるずぬけてポプラ天を掃く　虹子
夏菊の捨てられる放射能雨の中　雪嶺
新緑に泥をとばして戚装車ゆく　坑衣
病む少女鶴のみ吊らす梅雨の部屋　三根志
梅雨のカニ敷居を踏まへ伺ひぬ　春富
壷にバラさして坑夫の華うすし　富二
産卵期蝶はおのれの場(には)にこもる　幸月
鳥舞ふ檣同志の言葉冤かくて　照幸
夕焼くる沖や声なく友昇坑る
雨季近し妻はかがむにヒザ割りて
海辺の蟹塚(にほ)黄に光(は)え夏のカラス居て
群列の過ぎて朱薬の花白し
春雨や素足に鼻緒の色にじみ
牧夕焼バコダの如く牛の糞
拭きあげし命の工真坑内涼し
蛍光灯夏の陽彩のターピン座
妻はれや放射能雨の幾日経て



いぬ

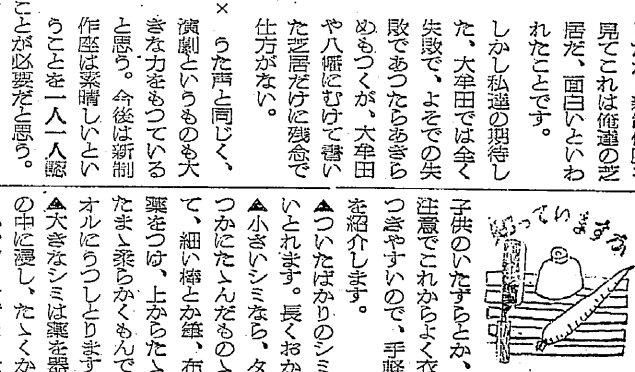
一年　ながえ　けんじ

ぼくのだいすきないぬは、名を「じゃつく」といいます。まだ、うまれたばかりのあかちゃんいぬだよ、とおとうさんがいわれました。くろいろとしろいろのまじつたかわいい、いぬです。ぼくがいぬをつれてうんどうさせにゆきます。ぼくはいぬがだいすきですどこにゆくのにもつついてきます。ごはんをどんぶりにいつぱいたべます。おをふつてよろこんで、おしかりというとわんわんとほえます「じゃつく」はりこうないぬです

つゆどき

二年　日吉　国雄

ぼくはまい日雨がふるので、ぼくはあんまりあそばれません。ときどきいえの中でかくれおにをしてあそびます。ときどきいえであそばないと、そとであそぶほうがおおいのです。川やいけの水がたくさんあるだろうとおもつていたら、「ふな」がかからないので、あみをかつてきたら、たくさん「ふなご」がとれました。それからかえつてからしくだいをしてからまた雨がふりました。もうなつになるしるしだとおかあさんがこたえました。おかあさんが、水をのむといけないのでいまゆざましをのんで、水をのまないようにしました。雨がふつても、ぼくがあそびにゆくときがあるので、おかあさんからおこられます。



手軽なシミぬき法

子供のいたずらとか、一寸した不注意でこれからよく衣類にシミがつきやすいので、手軽なシミ抜きを紹介します。

▲ついたばかりのシミならたいていとれます。長くおかないこと。

▲小さいシミなら、タオルをいくつかにたゝんだものゝ上にひろげて、細い棒とか箸、布、綿などに薬をつけ、上からたゝくか、重ねたまゝ乗らかくもんで、シミをタオルにうつしとります。

▲大きなシミは薬を器に入れてこの中に浸し、たゝくか、おしつけるか、ブラシでとります。ブラシは必ず布目に添つて軽く使うことです。

▲揮発油でふくときは、シミをふきとつてから、すぐ布か吸取紙を四面から当てて吸いとらせておきましよう。

▲必ずシミのまわりに輪をとり、そこから中心に向つてシミをとつてゆき、そのあと水で固く絞つた布でぽかすか霧をふき、くまになるのを防ぎます。

▲シミぬきの薬

果汁…アンモニアかサク酸かシユウ酸

インキ…赤はすぐ薄いセツケン液で洗えばとれます。青はシユウ酸を暖めてこの中につけ、暫くもむか、アンモニアとアルコールを半々に混ぜた液で洗います。

墨…どぶんのりを厚めに塗つてもみ出します。それでとれないのは大根おろしでふき、あとをセツケン液で洗います。

血…すぐならセツケン洗い。古くなつたのはアルコールで洗つたあとアンモニアでふきます。大根のおろし汁で洗つてもよろしい。

口紅…セツケン液で洗うかアンモニア、アルコールでふきます。

どろはね…そのまゝかわかしてじようずにブラシで払うのがいちばんいい方法。それでもまだ繊目に残つているのはセツケン液で洗います。

醤油…すぐに水かぬるま湯をハンカチにつけてふきとります。それでとれないのはセツケン洗いかアンモニアでふきます。

お酒とビール…水でふき、さらにアンモニアでふきます。

＝映画紹介＝ 白夫人の妖恋

中国の有名な伝説「白蛇伝」に負うもので、わが国の忠臣蔵のように中国で何度も書物にかゝれ、親しまれてきた物語りである。

この映画は白蛇の精である白夫人が若い許仙に一節の恋心を抱き強くも妖しい女の執念を通じて、愛の生活の美しさ、人間性の限界を追求しようとしている。……

今から約七百年前、中国が元といつていた頃西湖のほとりに住んでいた貧しい許仙(池部良)はある日舟遊びをしていると突然雷雨に襲われ、白娘(山口淑子)とその侍女小青(八千草薫)と知り合う翌日白娘の家を訪れた許仙は夢みるような気持でその日を過ごすが白娘から貰つた銀に「火」印があることから盗賊とみられ捕えられた。「許仙さまの他に男はない、お目にかかるためにはどんなことだつてしてみせる」白娘の顔は物凄く燃え上つた。罪に問われて許仙は蘇州へ送られる途中、つねに妖雲がつきまとつている。許仙は「行つて呉れ、私に何の罪があるのだ」と絶叫する。蘇州についた許仙は義兄の計らいで宿屋で働くことになるが、一陣の風とともに白娘と小青が現われ「許仙さまもう私はあなたを離しません」と白娘の顔は勝利に輝いている。楽しい生活が続くが或る日、酒の為に白蛇の姿に変つた白娘の姿をみて許仙は気を失う。天国に霊薬回生薬を手に入れに行くがその間許仙は息を吹き返し仏門に身を投じた白娘は山門に手をついて夫を帰してくれと懇願するが拒否されると意を決して呪文をとなえて豪雨を呼ぶ。許仙は刑期を終えて故郷に向うが道中白蛇を撃飛ばし白娘の声を耳にし「許してくれ白蛇の妄執にも似たお前の愛だけが私を幸福にしてくれたのだ!」と呼び続けていた

(二十日から太陽館)

〃組合巡回映画〃 女中ッ子

東北の寒村から上京した織本初(左幸子)は加治木家の女中になる。主人恭平(佐野周二)は日東時計の総務部長で家族は梅子夫人(淡路恵子)のほか三人だ。最初は田舎ツペで笑われた初もすつかり馴染み、とくにひねくれつ子の勝美(伊庭輝夫)は初が気に入る夫人の合オーバが紛失したがこれは勝美が仔犬の寝具につかつたので、彼女はこれを自分のタンスに始末する。勝美は学校では「女中つ子」などと冷かされるようになつた。

正月で初が帰郷すると勝美は淋しがつて一人で初のところまで行つたりする。

ある日ボロ切を探すため初のタンスを開けると合オーバが出てきた。初は喧ロ切を出された、別れに勝美を学校へ訪れたが「女中つ子つていわれるから来るなよ」と教室へ消えてしまつた。初は淋しく故郷へ向う列車にのつた。(十日山吹、十一、二日三作、十三日潜務、十四日三川、十五日宮浦、十六日三川、十七日宮浦、十八日宮内で映写)

今週の映画

○セントラル＝十一日より「マスコネル物語」「脅迫者」

○太陽館＝十三日より「与太者の若旦那」「お嬢さん登場」

○大天地＝十三日より「黒姫密帖」「青い夜霧の港町」

○東映＝十三日より「若様待捕物帖・魔の死美人屋敷」「かど屋太平記」

○銀星＝十四日より「スピードに命をかける男」「その顔をかせ」